

2018年7月

ネコの人生。先輩ネコと離れ、友だちになった犬とも別れ、ウサギともまた…そして最期は

眞鍋由比

今年の全校読書運動のテーマは「道」。

香港にいた小さなやせっぽちの野良猫は、ひよんなことからイギリスの軍艦に拾われ乗船することになりました。サイモンと名づけられ、氷を水さしから取り出すのが得意なその猫はネズミを捕ることを任務とされ、やがて中国との戦争に巻き込まれます。

中国が砲撃して、船上の水兵たちも多くの死傷者がでてサイモン自身も重傷を負うのですが、その日持たないだろうと言われながら生還して、ネズミを獲る姿が水兵たちの士気を高め、帰国したイギリスで勲章をもらい、大人気になってファンレターの返事を書く担当兵士を配置されるまでになります。

このサイモンのわずか3年ほどの人生(猫生?)を描いたのがこの本。実話に基づいています。途中、有名な写真家※アンリ・カルティエ・ブレッソンが実際この軍艦アメジスト号に乗り込んだ記録があるそうです。残念ながらブレッソンがサイモンを撮った写真は残っていませんが。(しかし本書には実際のサイモンが水兵や船長に可愛がられている写真がたくさん載っています)

しかしこのサイモン、この小説の中では最初はネズミを殺すことがいやで、できればお互いうまくやれるよう交渉します。けれど、戦渦に巻き込まれ、ネズミの被害が酷くなってしかたなくネズミを襲うことを決意して、「大活躍」するのです。猫がネズミを襲うのは本能かもしれませんが、人間同士が血を流し戦争をするのは避けたいものですね。

この勲章をもらったサイモンの姿は本の中の写真でも、ネット上のYou TubeでH.M.S. Amethyst back in Plymouth、あるいは simon the catで検索すると動くサイモンがみられます！

(これ、普通にgoogleでみるとアニメのサイモンがでてきますので要注意)

3人の船長に仕え、最期は寂しいのですが、できればジョージたち水兵たちと一緒にいさせてあげたかった。彼の人生は幸せだったのかな？

今年の先生方の推薦図書には猫に関するものがいくつかあります。特に『旅猫リポート』は、号泣モノです。表紙がぶち猫なんです。この秋公開の映画ではサイモンと同じハチワレのネコが主人公の相棒、ナナを演じています。サイモンと同じく賢く活躍してくれるのでしょうか。



小林希『美しい柄ネコ図鑑』エクスナレッジ2016では「ハチワレとは頭頂部や顔の額中心から柄が対称に左右に離れて入っている柄のこと。頭蓋骨を鉢に見立て、左右に割れたような柄に見えることから、【鉢割れ】と呼ばれたのがはじまりのようですが、現代は末広がりを示す【八割れ】と記されることが多いようです」とのこと。この本には12種類のハチワレが載っています。

※アンリ・カルティエ・ブレッソン Henri Cartier-Bresson 本校には彼の写真集が3冊入っていますから、興味のある人はぜひご覧下さい。特に『ポートレート内なる静寂』岩波書店2006 はマリリン・モンロー、キング牧師、アーサー・ミラー、サルトル、ポーヴォワール、カポーティ、シャネル、ユングと当時の有名人がその人格を表出した一瞬を切り取って魅力的。表紙はサミュエル・ベケット。